

捨てて孤児にはしない

ヨハネの福音書 14 章 12-21 節

はじめに

イエス様は、十字架で死なれる前夜の「最後の晩餐」の時、もう間もなくすると、ご自分は、弟子たちのもとを去って、父なる神様のもとに行かれると言われました。

今日の聖書箇所ではイエス様は、ご自身が父なる神様のもとに行かれた後、弟子たちはどうなるのかということを語っておられます。12 節でイエス様は、こう言われます。「**まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父のもとに行くからです**」。イエス様が父なる神様のもとに行かれた後、イエス様を信じる者たちは、イエス様と同じわざを行うようになり、それだけでなく、イエス様よりもさらに大きなわざを行うようになると言われるのです。「使徒の働き」を見ると、確かに弟子たちは、病人を癒したり、悪霊を追い出したり、時には死んだ人さえもよみがえらせます。まさに弟子たちは、イエス様と同じわざを行ったのです。では弟子たちは、イエス様よりもさらに大きなわざを行うようになったのでしょうか。イエス様よりも不思議な奇跡を行うようになったのでしょうか。残念ながら、そのようなことは書かれていません。では、イエス様よりも大きなわざとは何でしょうか。多くの学者たちは、それはイエス様よりも不思議な奇跡のことではなく、イエス様よりも広い範囲で影響力を発揮したことだと言います。イエス様の働きは、おもにパレスチナのユダヤ人に限定されたものでした。しかし弟子たちの働きは、ユダヤ人に限らず、異邦人にまで広げられ、アジアやヨーロッパにも及びました。まさにイエス様よりも、広い範囲の、より多くの人々に、イエス様の影響力を広げたのです。そういう意味で、弟子たちは、イエス様よりもさらに大きなわざを行なったと言えるのだと思うのです。

では、弟子たちは、なぜイエス様と同じわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行うことができたのでしょうか。

1. イエスの名によって、イエスに求める

13-14 節には、こうあります。「**またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます**」。弟子たちが、イエス様と同じわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行うことができたのは、彼らが祈ることを始めたからです。「福音書」を見ると、イエス様がよく一人で祈っておられたと書かれています。またイエス様が何度も弟子たちに、祈りについて教えられたと書かれて

います。しかし、「福音書」をよく見てみると、弟子たちが祈っている姿は、ほとんど見られません。むしろ「福音書」は、「祈れない弟子たち」を描いているように思えます。例えば、弟子たちが、悪霊につかれていた子どもから、悪霊を追い出すことができなかったことがあります。その時イエス様は、こう言われました。「**この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことはできません**」(マルコ 9:29)。弟子たちは、祈らずに、悪霊を追い出そうとしたのです。さらに、イエス様が十字架の死に備えて、ゲッセマネで苦しみもだえながら祈っておられる時、弟子たちは「**誘惑に陥らないように祈っていなさい**」(ルカ 22:40)と言われたにも拘らず、眠り込んでいたのです。イエス様が地上におられる間、弟子たちは、イエス様の祈る姿を目の前で見ても、イエス様から祈りについて多くのことを教えられていても、祈ることができなかったのです。しかし「使徒の働き」を見ると、イエス様が天に昇られてから、弟子たちがまず始めに行ったことは、「心を一つにして祈ること」(使徒 1:13-14)であったのです。彼らは、祈ることを通して、イエス様のわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行うことができるようになったのです。

では今日の聖書箇所ではイエス様は、弟子たちにどのように祈るようにと教えられたのでしょうか。それは、イエス様の名によって、イエス様に求めるということです。私たちが祈る時には、いつも最後に「イエス様の御名によってお祈りします」と言います。それは、イエス様ご自身が、「わたしの名によって求めなさい」と教えられたからです。

さらにイエス様はここで、イエス様の名によって、イエス様に求めれば、イエス様が応えてくださると教えておられます。イエス様は、「主の祈り」を始めとする様々な祈りの教えの中では、父なる神様に祈れば、父なる神様が応えてくださると教えています。ですから私たちも、祈る時には「天におられる父なる神様」と祈り始めます。しかしイエス様はここでは、父なる神様にではなく、イエス様に祈るようにと言われているのです。そして、イエス様に祈れば、イエス様が応えてくださると教えているのです。イエス様が父なる神様のもとに行かれてからは、父なる神様だけでなく、イエス様にも祈ることができるのです。そして父なる神様だけでなく、イエス様も、私たちの祈りに応えてくださるのです。ですから私たちは、祈りの中で、「父なる神様」と呼びかけるだけでなく、「イエス様」と呼びかけても良いのです。さらに言えば、「聖霊なる神様」と呼びかけても良いのではないのでしょうか。私たちの祈りは、三位一体の神様が聞いてくださり、三位一体の神様が応えてくださるものだからです。

2. もう一人の助け主が私たちとともに、私たちのうちにおられる

もう一つ、弟子たちが、イエス様と同じわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行うことができるようになったのは、彼らに聖霊が与えられたからです。イエス様は、16-17 節でこう言われます。「**そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなた**

**がたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちに
おられるようになるのです」。**イエス様が父なる神様のもとに行かれると、父なる神様は、イエス
様とは別の「助け主」を弟子たちに与えてくださったのです。その「助け主」とは、「真
理の御霊」つまり「聖霊」のことです。

聖霊は、私たちを真理へと導いてくださいます。ヨハネ 16：12-13 で、イエス様は弟
子たちにこう言われました。「**あなたがたに話すことはまだたくさんありますが、今あなたがたは
それに耐えられません。しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理
に導いてくださいます**」。イエス様が地上におられた時、弟子たちは限られた真理しか知るこ
とができませんでした。しかし、イエス様が父なる神様のもとに行かれて、聖霊が与えら
れると、イエス様が地上におられた時よりも、より多くの真理を知るようになったので
す。「福音書」と「使徒の働き」の弟子たちを比べると、まるで別人のようです。「福音
書」では、見当違いなことばかり言っていた弟子たちが、「使徒の働き」では多くの人々
の前で、旧約聖書を自由自在に解釈しながら、大胆に説教をするようになったのです。そ
れは、聖霊が弟子たちを真理へと導いてくださったからです。

さらに聖霊は、私たちと共にいてくださるばかりでなく、私たちのうちにおられるので
す。イエス様が地上におられた時、イエス様は弟子たちと共にいてくださいましたが、弟
子たちのうち(in)にはおられませんでした。イエス様は、肉体を持っておられたので、
時間と空間の制限を受けられました。そのため、弟子たちのうち(in)におられることは
できませんでした。しかし聖霊は、霊ですから、時間と空間の制限を受けることなく、弟
子たちのうちにおられ、弟子たちだけでなく、イエス様を信じるすべての者たちのうち
におられるのです。使徒パウロは、こう言いました。「**あなたがたのからだは、あなたがたのう
ちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません**
(1 コリント 6:19)」。聖霊は、私たちと共におられるだけでなく、私たちのうちにおられる
のです。そうして、私たちをいつも助けてくださるのです。

3. イエスは戻って来て私たちのうちにいる

では、イエス様が父なる神様のもとに行かれると、イエス様は私たちと共におられない
のでしょうか。イエス様は、18-20 節でこう言われます。「**わたしは、あなたがたを捨てて
孤児にはしません。あなたがたのところに戻って来ます。あと少しで、世はもうわたしを見なくなりま
す。しかし、あなたがたはわたしを見ます。わたしが生き、あなたがたも生きることになるからです。そ
の日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにい
ることが、あなたがたに分かります**」。イエス様は、弟子たちを捨てて孤児にはしない、必ず戻
って来ると言われます。では、イエス様は、いつ弟子たちのもとに戻って来られるのでし
ょうか。それは、20 節にあるように「その日」です。

「その日」とか「イエス様が戻って来る」と聞くと、私たちは、イエス様が「最後の審
判」の時に、再びこの地上に来られる「再臨」の時のことを思い起こすかもしれません。

しかし、ここでの「その日」が、もしイエス様の「再臨」の時だとすれば、それまでの長い間、弟子たちは「孤児」になってしまいます。実は、「ヨハネの福音書」では、「その日」というのは、必ずしも「再臨」の時だけではありません。例えば 16：26 には、**「その日には、あなたがたはわたしの名によって求めます」**とあります。弟子たちが祈るようになる時が、「その日」と呼ばれているのです。つまり、弟子たちが祈るようになる時とは、「再臨」の時ではなく、イエス様が父なる神様のもとに行かれて、弟子たちに「聖霊」が与えられる時です。イエス様はその時に、弟子たちのもとに「戻って来る」と言われるのです。つまり、イエス様は、弟子たちに聖霊が与えられる時に、戻って来られるのです。さらに言い換えるなら、イエス様は、聖霊を通して、弟子たちのもとに「戻って来られる」のです。イエス様は、マタイ 28：20 で、**「見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます」**と言われました。それはつまり、イエス様は、聖霊を通して、世の終わりまでいつも私たちと共にいてくださるということなのです。聖霊が私たちと共におられ、私たちのうちにおられるということは、イエス様が私たちと共におられ、イエス様が私たちのうちにおられるということでもあるのです。

おわりに

イエス様を信じる人は、イエス様のわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行うようになります。そのために、イエス様は、イエス様の名によって、イエス様に祈るようにと言われます。さらにイエス様は、イエス様を信じる人に、聖霊を与えます。聖霊は、私たちを真理へと導いてくれます。そして、聖霊はいつも私たちのうちにおられ、弱い私たちを助けてくださいます。

イエス様を信じる人に求められていることは、イエス様を愛し、イエス様の戒めを守ることです。イエス様は、15 節でこう言われます。**「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」**。また 21 節でも、こうも言われます。**「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します」**。イエス様を愛するとは、決して感情的なものではありません。イエス様への愛は、イエス様の戒めを守ることによって現れるのです。しかしイエス様は、15 節で「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」と言われたすぐ後に、聖霊という助け主が与えられると言われます。さらに、21 節で、「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です」と言われるすぐ前には、「わたしがあなたがたのうちにいる」と言われます。イエス様は決して、「あなたがたの力で、わたしの戒めを守りなさい」と言われているではありません。そうではなくて、「あなたがたには、聖霊という助け主がいる、わたしもあなたがたのうちにいる、だからわたしの戒めを守りなさい」と言われるのです。イエス様は、私たちを捨てて孤児にはしないとされます。私たちは、父なる神様に愛され、イエス様に愛され、イエス様を愛する、そういう愛の中で、生かされていくのです。

天におられる私たちの父なる神様。

イエス様は、「わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません」と言われます。イエス様は、天に昇られてからも、聖霊を通して、私たちと共におられ、私たちのうちにおられます。そして、私たちの祈りを聞き、私たちの祈りに応えてくださいます。私たちの罪の償いのために、十字架で死なれたイエス様を、心から愛し、その戒めを守って生きることができるよう。また、この地上で、イエス様のわざを行い、イエス様よりもさらに大きなわざを行えますように。そうして、父なる神様とイエス様の愛の中で生かしてください。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。